

## 課題整理

# 志望校検討会の現状と課題

「VIEW21」の読者モニターアンケート結果から、主に3年生で実施される志望校検討会の現状と課題を確認する。

### 指導の基準づくりと ノウハウの蓄積が課題

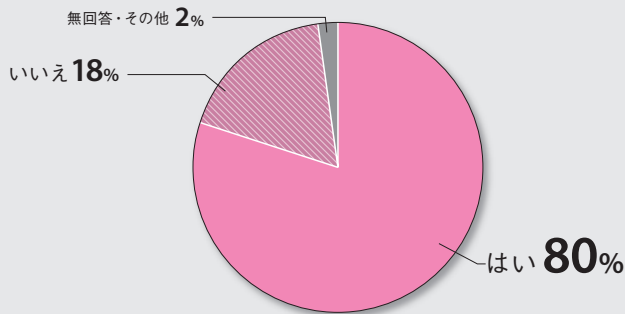
志望校検討会を「実施している」と回答した学校は8割。参加者は、担任は100%で、学年主任、進路主任、進路担当は8割以上となっている。学年の教科担当は48.8%と、管理職よりも少ない。

3年生で行う検討会は、平均2.7回。4～7月の実施目的は「志望校の確認・全体の学力把握」「夏休み前の面談で伝える内容の共有」などで、8～12月の実施目的は「併願校の検討」「冬休みの指導の目線合わせ」が多く挙げられた。1月以降の検討会はセンター試験後に開き、出願校を決定する学校が多い。  
3年生で実施する検討会の課題は、「検討会の進め方」「教師の意識やスキル」「ノウハウの蓄積」に大

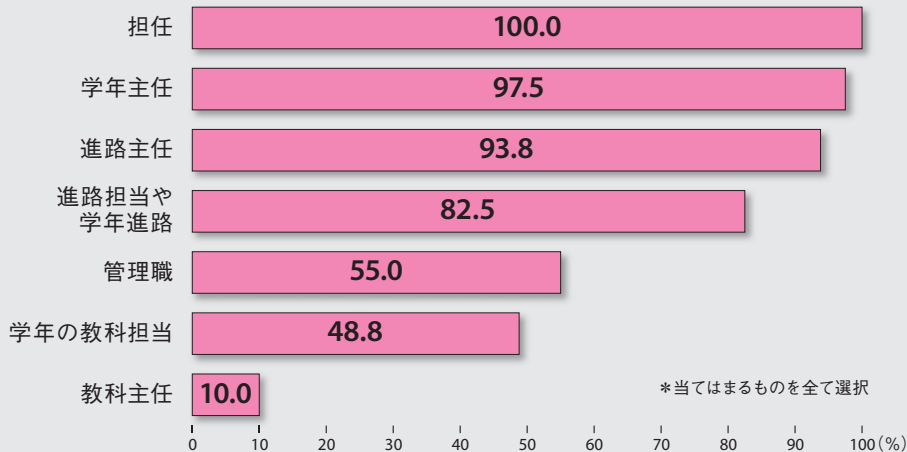
別される。進め方に関する課題で目立ったのは、志望校を決定する際の校内基準があいまいな点だ。検討材料のデータが学年により異なる、数値を断片的に解釈してしまうなど、全体としての指導の合意が取りにくい現状があるようだ。

意識やスキルについては「学年や学校全体で指導する意識が低い」「生徒の意見をうのみにするだけで、指導になっていない」といった課題が目立った。また、ノウハウの蓄積については「入試の知識が積み重ならない」「教科担任のアドバイスが得られない」などの回答が見られた。  
指導の足並みをそろえるための「基準づくり」、指導力を高めるための「指導ノウハウの蓄積」を進めながら、教師全員の意識を高めることが、検討会を意義あるものにするポイントとなりそうだ。

#### Q.1 校内で志望校検討会を実施していますか



#### Q.2 検討会に参加する先生はどのような先生ですか



## Q.3 各時期の志望校検討会のテーマを教えてください

4~7月

## ■全体の傾向把握

- 学年全体の学力や志望の傾向を共有し、面談などに生かす。(愛知県)
- 生徒一人ひとりの進路希望と学年団の指導方針の共通理解を図り、進路指導に漏れがないようにする。(茨城県)

## ■入試形態や大まかな進路先の確認

- 推薦入試を軸にするか一般入試を軸にするかを検討する。(京都府)
- 一般入試だけでなく、担任から生徒個々の希望進路をヒアリング。AO入試・公募推薦・指定校推薦など、志望別に入試形態を確認する。(岩手県、静岡県、三重県、和歌山県、広島県、宮崎県)

## ■夏休み前後の指導の目線合わせ

- 生徒の志望に応じた志望校群を挙げる。担任の視野を広げておき、保護者懇談会で保護者の視野を広げることにつなげる。(富山県、広島県)
- それぞれの志望に実力を届かせるため、担任が生徒に夏休みの具体策をアドバイスできるようにノウハウを共有する。(東京都、三重県、滋賀県)
- 教科担当から夏休みの弱点補強として生徒に伝えるべきことを提示。志望校を「憧れ校」「実力相応校」「安心校」に分け、生徒の学力に合っているか判断する。(広島県)
- 各教科の特徴や今後の教科指導で留意すべき点を確認し、担任が把握していない生徒の力についてアドバイスする。(滋賀県)

8~12月

## ■出願パターンの検討

- 模試結果を基に国公立大の出願校を検討し、複数の教師

の意見で裏付け、直後の三者面談で出願の話が出来るようにする。(福井県)

- センター試験前の志望校の幅を見る。センター試験後の検討がスムーズにいくように、いろいろな可能性を探しておく。(新潟県)
- 生徒の第1志望校受験の意向を確認。今後の伸びしろを考慮した志望校を検討する。(京都府)

## ■冬休み前後の指導の目線合わせ

- 妥当な国公立大を志望しているかを見極めつつ、私立大の併願校を検討。志望と実力に著しい開きがある場合は、センター試験後の面談の伏線をどのように張るかという点も検討する。(滋賀県)
- 生徒一人ひとりの学力推移と進路希望を確認し、指導法の共通理解を図る。これを冬休みの三者面談に活用する。(静岡県)
- 伸び悩む生徒や、志望校の変更が見られる生徒について今後の指導を考える。(秋田県)

## ■難関大志望者への指導

- 難関校を目指す生徒の状況を確認、共有し、その後の指導に生かす。(秋田県、愛知県)

1~2月

## ■出願校決定、個別学力試験の具体策

- センター試験の自己採点結果を受け、合格可能性の判定、より可能性のある大学の提示、直前期の学習などを検討し、三者面談に活用する。(静岡県など)
- センター試験の自己採点結果から、出願校を決定。生徒別に個別学力試験の得点を予想し、合格に向けての分野をどのように力をつけるか、入試までの具体策を検討する。(広島県など)

## Q.4 3年生で実施する志望校検討会の課題は何ですか

## ■検討会の運営に関する課題

- どうしても学年全体の検討になりがちで、個々の生徒について検討する時間が短い。(群馬県)
- 学年全体で一人ひとりを丁寧に検討すると時間がかかる。(静岡県)

## ■検討会で用いる資料やデータに関する課題

- 学校独自の出願基準がないため、業者のデータを中心に検討している。(秋田県、新潟県など)
- 学校全体としてデータが整理されていないため、検討するデータが学年によって異なる。(埼玉県、愛知県、宮崎県)

## ■検討内容に関する課題

- 外部からアドバイザーを招へいしているため、教師自身の入試の研究がおろそかになる傾向がある。(徳島県)
- 進路指導部内の学年間のつながりが弱く、前年度の経験を生かした検討にならない。(広島県)
- 学年としての統一方針があいまいで、担任の生徒分析力が弱いと、模試の分析だけに頼りがちになる。(埼玉県)

## ■検討メンバーの意識やスキルに関する課題

- 学校全体で指導するという意識が低く、クラスの生徒のみを見ようとする傾向がある。(秋田県、宮城県、埼玉県、愛知県、兵庫県など)

- 担任の意識の差が大きい。生徒を指導するか、生徒の意向を尊重するかでは大きく違うが、これに気付いていない担任もいる。「志望を育てる」意識が学校全体に浸透していない。(滋賀県、宮崎県)
- 入試の知識不足により、生徒の志望が的確かを客観的に判断できず、教科担当からも具体策が出てこない。(静岡県、広島県)
- 自分の担当教科の成績だけで判断してしまいがちである。(静岡県)
- 検討会に至るまでの担任の指導が、学年団によってばらつきがある。(愛知県、京都府、滋賀県)
- 進路指導部と担任の発言が多く、若手教師や教科担任からの発言が少ない。(新潟県、静岡県、京都府、福岡県)

## ■その他

- 生徒・保護者の思いと実力との乖離の調整。(奈良県)
- 生徒の実際の成績と志望校のギャップをいかに埋めていくかの解決策が見いだせないことが多い。(北海道、岩手県、宮崎県)

Q.1~4出典／「VIEW21」高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは2011年6月に実施。ウェブ及び用紙を郵送し、ウェブ、もしくはファックスで回収。有効回答数は100。